

寺報

第43回寺院巡りご報告

平成二十七年七月
第七十一号
正念寺護持会発行
常陸太田市久米町二十一
電話 〇二九四一七六一二〇五八
FAX 〇二九四一七六一〇一六九

去る五月二十七日から二十八日にかけて、親鸞聖人の時代に鹿島門徒の中心にあった無量寿寺様と天井画に特徴のある千葉県銚子の寶満寺様に参拝させていただきました。

無量寿寺様は、本堂が県の重要文化財に指定されており、茅葺きの重厚なお堂と、親鸞聖人のお弟子である順信坊を開基に持つ二十四輩第三番のお寺になります。こちらでは、御住職から御寺院の縁起をお話いただきました。お話を伺いますと、元々は大同元（八〇六）年に三論宗の寺として創建され、その後禅宗となりましたが、領主村田刑部少輔平高時の妻が難産で亡くなると、我が子愛しさのあまり幽霊となって毎夜毎夜現れたため、寺の住持も恐ろしさのあまり逃げ出してしまい無住となっていた所、親鸞聖人の噂を聞いた村人たちの懇願を受け、幽霊を濟度したのち三年ほどこの寺に留まり、その後を順信坊に託したという事でした。この順信坊は、無量寿寺に伝えられる「大中臣氏系図」に依ると、鹿島神宮の宮司を勤めた大中臣氏の一族であった信親が出家し順信房となったと記されているようです。

無量寿寺様には色々接待を戴き、その後は親鸞聖人も経典を見るために通われたとされる鹿島神宮の門前で昼食を戴き、その後は鹿島神宮を見学し、親鸞聖人が通われたと伝えられる神宮寺の跡



地などを見学しながら銚子に入り、ヤマサ醤油で見学をしながら犬吠埼ホテルに入りました。

二日目は、寶満寺様に参拝をさせていただき、坊守様から御寺院の縁起をお話いただきました。それに依りますと、旧本堂は第二次大戦中の空襲により焼失してしまい、寺の成り立ちに關するものもすべて焼けてしまったそうです。そのため、今ハッキリしているのは、今から四百年ほど前に相模国から銚子に移転。その当時西方寺という寺号であったものを、宝永四（一七〇七）年に現在の寶満寺へ改称したということ辺りからのようです。こちらのお寺は、最初にも書いたように天井画が見事で、それは先々代住職が、アメリカの女流現代美術作家ジェニファー・バートレット氏に、十字架だけは困るといふほぼ無条件で依頼して出来上がったもので、三二一枚からなっているそうです。絵の題材は、制作者本人が「銚子市」で取材した魚や花、着物や食器など多岐にわたっております。それを手漉きの和紙に日本画で使われる岩絵具を使って描き上げられたようです。



寶満寺様にも接待を戴き、一時間ほどの滞在時間があっという間に過ぎてしまいました。その後、ウオッセ21での買い物や潮来のあやめ園・茨城空港などを見学しながら、午後五時前には久米に到着し解散となりました。今回は、全員で二十二名の参加とちよつと淋しい人数ではありましたが、二日間無事に楽しい時間を過ごさせていただきました。



イスラム教と

イスラムを名乗る過激派

イスラムを名乗る過激派は、今も世界各地で自爆テロを含む過激な行動を続けており、世界中の耳目を集めております。しかし、この時私たちが気を付けなければならないことは、イスラムを名乗る過激派とイスラム教の信者の方々を混同してはならないと言うことです。そして以前にも書きましたが、イスラム教を恐ろしい宗教だと思っではないかと言うことです。

イスラム教に対する恐怖対象の一つとして、イスラムを名乗る過激派の者たちがよく使うジハード（聖戦と訳されますが）という言葉があります。この言葉ですが、これも本来の意味は「聖戦」とか言う戦いというだけの意味合いではありませんでした。

このジハードには二種類あり、大ジハード・偉大なジハードなどとも呼ばれる、罪深い性を抑制して、自分自身の人格を浄化していくことを指すものがあり、これは最も困難なジハードとも言われています。

次に、小ジハード（剣のジハードとも言われる）で、これは共同参加のジハードであり、イスラム教徒を先制攻撃した者に対する戦闘を言います。つまり、イスラム教徒に対して攻撃を仕掛けられた時にだけ「剣」を取れと言っているわけです。

イスラムを名乗る過激派の者たちが「自爆テロ」を仕掛けて無差別に命を奪うことなどは、イスラム教信者の人達にとってでも論外であり、第一にイスラム教徒がもつとも大事にすべきジハードは、自分自身の人格の浄化、つまり内なるジハードであって、他の者の命を巻き込



むようなものは、ジハードを隠れ蓑にした「テロ行為」であり、イスラム教世界の中でも「犯罪」でしか無いのです。

私たちは、様々な「自爆テロ」が起こる度に、「イスラム原理主義者」という呼称や「イスラム国」という名前が使われるため、自爆テロとイスラム教を結びつけてしまいがちですが、「イスラム原理主義者」もいわゆる「イスラム国」もイスラム教の信者とは区別してみなければなりません。「イスラム原理主義者」そしていわゆる「イスラム国」も自分たちに都合の良いようにイスラム教を利用して、まだ知識の浅い子供たちや女性（女子は教育を禁じられた者が多い）を洗脳し、イスラムを名乗る過激派たちの支配のもと、そういった子供たちや女性を「自爆テロ」にかり出していると言うのが実情でしょう。

その為、イスラム教の信者の人達は、「イスラム国」という名前を使わないで欲しいとマスコミに依頼しているようですが、マスコミは相変わらず「イスラム国」という呼称を使い、私たちは「イスラム国」がイスラム教を代表する名前のようにイメージ付けられてしまっておりません。これは正に、マスコミのミスリードの怖さだろうと思えます。

イスラム教は、私たち日本人にとって決して身近な宗教ではありません。そのために「マスコミ」の報道でのイメージをそのまま受け止めてしまいがちです。しかし「マスコミ」も「嘘」とまで言うと言い過ぎかもしれませんが、マスコミ自体が意識しているかしていないかに係わらず「ミスリード」をすることだけは頭に入れておいた方が良くもありません。

ともかく、イスラム教が怖いというのは、マスコミによるミスリードであり、イスラム教自体は、怖い宗教では無く、真摯に人々の平和を願っている宗教であると言うことだけは、忘れてはならないと思います。

浄土真宗とお盆

お盆、正確には「盂蘭盆会」ですが、これは印度の言葉「ウランバーナ」に漢字を当てたものです。では、このウランバーナの意味はどういったものだったのでしょうか？それは、逆さ吊りという事なのです。

人間が逆さ吊りにされてそのままの状態であって置かれたらどうなるか？数時間で意識を失い、終いには死に至る。ウランバーナとは、現実生活の中で見たならば、死に至るほどの苦しみを、死後ズーツと受け続けると言う意味なのです。

浄土真宗では、「死」を縁として浄土に生まれ、そこで「悟り」を開いて仏陀となると説かれておりますので、そのような苦しみを受ける事は無いはずですが、ではどうして「お盆」の行事をしているのでしょうか。

そこには、無明むみやうの迷いの中にいるにも係わらず、その迷いを真実と思い込んで苦しんでいる私は、仏陀の眼から見れば「逆さ吊り」されている程の苦しみを受けている「餓鬼がきや地獄の亡者」そのものなのです。いつ生命終わるか分からない我が身でありながら、それを忘れて自分だけはまだ死なないと安心しきって欲望を貪っている私の姿こそ「餓鬼」の姿なのです。

先に亡くなった故人は、間違はなく私の少し先の未来の姿です。必ず死ぬという根本的な問題を解決するためにお釈迦様が説かれたものが「お経」です。決して「死者」のために読むものではなく、生きていく私が聞いていくものが「お経」なのです。そして、ここに説かれた真実に目覚めさせていただいてこそ「お盆」が意義ある行事になっていくのではないのでしょうか。

納骨堂完成のご案内

昨年来工事を進めていた永代供養形の納骨堂が完成して、去る5月22日に完成記念法要を常陸大宮市の常弘寺様、本泉寺様にご助働いただき、正念寺総代、会計監査の方々と共ににお勤めさせていただきました。

葬儀の形や家のあり方などが、目まぐるしく変わっていく現代に於いて、墓地の形にも変化が現れております。この納骨堂は、そういう時代の中で、求められる形を模索している一つの有りようかと思っております。

納骨堂正面に刻んである「俱會一處くわいいつしよ」という言葉は、「阿弥陀経」の中に出てくる言葉で、この苦しみの有る今の世界での生命終わつての後は、浄土で共に会いましょう、と言う意味になります。この世界では、お互いに悩み苦しみの有る生命を生きてはいても、浄土に生まれた後は、阿弥陀仏と同格の仏陀となって、あなたも私も縁ある人を救う

「浄土」の住人(仏陀)となりましょうという程の意味を含んだ言葉が「俱會一處」になります。

納骨場所は、90体分用意しておりますが、詳細やご利用に関しては、寺に直接ご相談下さい。



感謝録

蕎麦打ち教室受講生募集

この度、正念寺ではご門徒の和田政一様を講師に迎え「蕎麦打ち教室」を開催いたします。年越し蕎麦に向けて、九月より蕎麦打ちと一緒に勉強しませんか。

場 所 正念寺(予定)
募集人数 五名程度
会 費 実費(そば粉代等)
日 時 九月十三日(日)午後二時より

今後の行事のご案内

八月 九日 歓喜会法要
九月二十三日 彼岸会法要
十一月十八日〜十九日 報恩講法要
十二月三十一日 除夜会
一月 一日 元旦会
三月 八日 永代経法要
三月二十日 彼岸会法要

なお、蕎麦打ちの道具をお持ちの方はご持参いただけると有り難いです。



観劇のご案内

来る十月七日に浅草公会堂に於いて如月の華が上演されます。この劇は、本願寺二十一代門主の次女として生まれ、九条家に嫁ぎ、四十二歳で亡くなられた武子様の一生を描いたものです。

あらずじは、本願寺二十二代お裏方籌子様(義姉)が訪ね来て、仏教婦人会や女子大設立の夢を武子様に託し亡くなります。ロンドン留学から戻った男爵良致と築地本願寺の一角に普通の家庭を持った矢先、関東大震災が起きます。自らも被災した武子は、被災者救援に立ち上がり先頭に立って歩み始めるのですが……



住職雑感

本願寺の阿弥陀堂・御影堂などが、国の重要文化財から国宝になり、築地本願寺の本堂は国の重要文化財に指定されました。

築地本願寺の本堂は、京都・本願寺の伝統的な建物と違い、インドの石窟寺院風の鉄筋コンクリート作りの建物で、関東大震災で壊れた旧本堂に変わり昭和六年に起工し、昭和九年に完成したものです。

現在では、隣にある築地市場と共に、観光客の参拝も多く、外国の方もかなり目にします。また、築地本願寺の境内は、オーム真理教が起こした「サリン事件」の時には、救護所や救急車の待機場所として解放されておりました。最近では、東日本大震災の時にも、参拝者の方々ばかりでなく、帰宅困難者の方々にも施設を開放し、二百人以上の人達が本堂などの施設に泊まっておりました。

ともすると寺院は、葬儀・法事の場合ととられがちですが、スペースはありますから、こういう災害の時の避難場所としても活躍出来るだろうと思います。

現在正念寺では、二十人程度であれば数日間食べられるように、パンの備蓄を進めております。また、消費期限一年前に入れ替える事で、飢餓で苦しむ人達への支援もあわせて行えるパン・アキモトの救任鳥プロジェクトに賛同して参加しております。

私たちは、様々なご縁の中で生かされております。この救任鳥プロジェクトがまた新たなご縁となって、一人でも多くの人々の顔に笑顔が生まれれば有り難い事です。